

短 報

精神障害者グループホームの実態とあり方に関する研究

八木夏子^{1),3)} 笹野友寿²⁾ 末光 茂¹⁾

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科¹⁾

川崎医科大学 精神科学教室²⁾

(平成8年11月20日受理)

Nationwide Survey of 272 Group Homes for the Mentally Disabled in Japan

Natsuko YAGI^{1),3)}, Tomohisa SASANO²⁾ and Shigeru SUEMITSU¹⁾

¹⁾Department of Medical Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki, 701-01, Japan

²⁾Department of Psychiatry
Kawasaki Medical School
Kurashiki, 701-01, Japan

³⁾258-5 Kishimachi, Shimada, 427, Japan
(Accepted Nov. 20, 1996)

Key words : group homes, the mentally disabled, financial aid,
community care, psychiatric patients

はじめに

精神障害者グループホーム（以下「グループホーム」と略す）は、地域において共同生活を営んでいる精神障害者に対して、食事の世話など生活の援助体制を備えた施設である。したがって、精神障害者の自立生活を助長するためには必要不可欠な施設であるといえる。現在、グループホームに対しては国の施策である精神障害者地域生活援助事業に基づいて補助がなされているが(表1)、その実態や問題点についてはまだ十分に把握されていない。そこで、本研究において全国のグループホームの実態を調査し、今後の課題を提起したい。

対象と方法

1995年11月1日現在において、国の施策である精神障害者地域生活援助事業に基づく補助金を受けているグループホームを対象とした。

グループホームの運営主体、バックアップ施設および地方自治体による補助の有無について、各都道府県の精神保健担当課に文書にて問い合わせた。回収率は100%であった。

また、そのなかの3施設においては実際に実習を通じた調査を実施した。

結 果

(1) グループホームの数

表1 精神障害者地域生活援助事業（精神障害者グループホーム）実施要項

| | |
|------------|---|
| 目的 | 地域において精神障害者グループホーム（共同生活を営む精神障害者に対し食事の世話等の生活援助体制を備えた形態）での生活を望む精神障害者に対し日常生活における援助等を行なうことにより精神障害者の自立生活を助長する事を目的とする。 |
| 運営主体 | 次の各号のいずれかに該当する者とする。 1) 精神障害者社会復帰施設、精神病院等を経営する地方公共団体及び非営利法人。 2) グループホームに対する支援体制の確立している地方公共団体及び非営利法人等であって都道府県知事が適当と認めた者。 |
| 入居対象者 | グループホームの入居対象者は精神障害者であって次に掲げる要件のいずれにも該当する者とする。 1) 日常生活上の援助を受けずに生活することが可能でないか又は適当でない者であること。 2) 一定程度の自活能力があり数人で共同の生活を送ることに支障がない者であること。 3) 就労（福祉的就労を含む）している者であること。 4) 日常生活を維持するに足る収入があること。 |
| 定員 | おおむね5～6人。 |
| 立条地件 | ア) グループホームは緊急時においても運営主体が迅速に対応できる距離にあること。 イ) 生活環境に十分配慮された場所にあること。 |
| 建物 | 原則として当該運営主体が建物の所有権又は借地権を有するす。 |
| 世話人 | ア) グループホームには世話人を配置すること。 イ) 世話人は精神障害者に理解があり数人の精神障害者の日常生活を適切に援助する能力を有する者であること。 ウ) 世話人はグループホームの運営主体と委託契約又は雇用契約を結んだ者であること。 |
| グループホームの運営 | 運営主体は次の業務を行なうものとする。2) 5) 6) の業務についてはその全部又は一部を世話人に行なわせることができる。 1) 世話人の選定及び世話人の代替要員を確保すること。 2) 入居者に対して食事の世話、服薬指導、金銭出納に関する助言等日常生活に必要な援助を行ないこと。 3) 入居者が疾病等により生活に困難を生じる恐れがある場合には医療機関と速やかに連絡をとるなど入居者の生活に支障をきたさないよう適切な配慮を行なうこと。 4) 世話人に対する指導、監督、援助、研修を行なうこと。 5) 入居者の生活状況を把握しておくこと。 6) 入居者負担金を徴収し、それを適正に処理するとともにこれに関連する諸帳簿を整備すること。 7) グループホーム運営にかかる会計に関する諸帳簿を整備すること。 |
| 入居者の費用負担 | 家賃、飲食物費、光熱水費及びその他の共通経費については入居者及び世話人がそれぞれ負担するものとする。 |
| 費用の支弁 | 都道府県知事は精神障害者グループホームを指定した場合においては当該グループホームの運営にかかる必要な費用を支弁するものとする。 |
| 経費の補助 | 国は、都道府県知事が上記により支弁した費用について別に定めるところにより補助するものとする。 |

グループホームの総数は272施設であった。ブロック別に見ると北海道3、東北21、関東100（東京40）、中部57、近畿34、中国16、四国9、九州32であった（表2）。

(2) 運営主体

運営主体別のグループホーム数は、医療法人93、任意団体63、福祉法人49、家族会38、個人病院12、社団法人・財団法人12、市町村2、その他3であった（表2）。

(3) バックアップ施設

バックアップ施設別のグループホーム数は、病院・診療所168、福祉施設29、保健所・福祉セ

ンター3、その他1、なし2、不明69であった（表3）。

(4) 補助

国からの補助は運営補助費として年額2,998,000円であった（表4）。

地方自治体で独自に補助を行っているところもあった。東京都では事業費として年額6,912,000円の補助がなされていた。他にも神奈川県、滋賀県および川崎市からも補助がなされていた（表4）。

表2 精神障害者グループホームの運営主体

| 都道府県 | 総数 | 運営主体 | | | | | | | |
|-------|-----|------|------|--------------|------|------|-----|-----|-----|
| | | 福祉法人 | 医療法人 | 社団法人 財団法人 | 個人病院 | 任意団体 | 家族会 | 市町村 | その他 |
| 北海道 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 青森 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 岩手 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 宮城 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 秋田 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 山形 | 6 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 |
| 福島 | 6 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 茨城 | 5 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 栃木 | 6 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 群馬 | 7 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 埼玉 | 10 | 7 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 千葉 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ※ 東京 | 40 | 1 | 2 | 0 | 0 | 31 | 4 | 0 | 2 |
| ※ 神奈川 | 28 | 4 | 0 | 0 | 0 | 24 | 0 | 0 | 0 |
| 山梨 | 4 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 長野 | 10 | 0 | 4 | 0 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 |
| 静岡 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 愛知 | 4 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 岐阜 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 三重 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 新潟 | 15 | 3 | 10 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 富山 | 10 | 0 | 2 | 0 | 6 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 石川 | 5 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 |
| 福井 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ※ 滋賀 | 5 | 1 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 京都 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 大阪 | 19 | 1 | 10 | 0 | 2 | 0 | 6 | 0 | 0 |
| 兵庫 | 4 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 奈良 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 和歌山 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 鳥取 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 島根 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 岡山 | 6 | 3 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 広島 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 山口 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 徳島 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 香川 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 愛媛 | 4 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 高知 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 福岡 | 10 | 0 | 5 | 0 | 0 | 1 | 4 | 0 | 0 |
| 佐賀 | 3 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長崎 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 熊本 | 6 | 0 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 大分 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 宮崎 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 鹿児島 | 5 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 沖縄 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 272 | 49 | 93 | 12 | 12 | 63 | 38 | 2 | 3 |

※地方自治体からの助成あり

1995年11月1日 現在

表3 精神障害者グループホームのバックアップ施設の状況

| 都道府県 | グループ ホームの 総 数 | バ ッ ク ア ッ プ 施 設 | | | | | |
|-------|---------------------|-----------------|----------------|-----------------|-------|------|-----|
| | | 福祉法人 | 病 院 所 診 療 所 | 保 健 所 福祉センター | そ の 他 | 特になし | 不 明 |
| 北海道 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 青 森 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 岩 手 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 宮 城 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 秋 田 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 山 形 | 6 | 1 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 福 島 | 6 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 茨 城 | 5 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 栃 木 | 6 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 群 馬 | 7 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 埼 玉 | 10 | 7 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 千 葉 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東 京 | 40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 |
| 神 奈 川 | 28 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 28 |
| 山 梨 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長 野 | 10 | 2 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 静 岡 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 愛 知 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 岐 阜 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 三 重 | 3 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 新 潟 | 15 | 0 | 15 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 富 山 | 10 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 石 川 | 5 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 福 井 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 滋 賀 | 5 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 京 都 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 大 阪 | 19 | 0 | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 兵 庫 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 奈 良 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 和 歌 山 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 鳥 取 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 島 根 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 岡 山 | 6 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 広 島 | 3 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 山 口 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 徳 島 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 香 川 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 愛 媛 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 高 知 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 福 岡 | 10 | 1 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 佐 賀 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長 崎 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 熊 本 | 6 | 0 | 5 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 大 分 | 3 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 宮 崎 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 鹿 児 島 | 5 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 沖 縄 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 272 | 29 | 168 | 3 | 1 | 2 | 69 |

1995年11月1日 現在

表 4 国・地方自治体からの補助

| | | | | | |
|------------------------------------|--|--|--------|---|-------|
| 国の施策 | 運営費補助 | 月額 249,000円 年額 2,998,000円 *負担割合 国 2分の1 都道府県 2分の1 | | | |
| 東京都の取り組み | 開設準備費 | (補助は補助開始初年度のみ) 〈年額〉 309,000円 | | | |
| | 事業費 | 月額 576,000円×12か月 (1か所あたり) 年額 6,912,000円 (1か所あたり) | | | |
| | 施設借上費 | 49,900円 (生活保護住宅扶助所長承認額の月額)×月数 *居室～実際に居住のために使用している部屋。 台所、浴室等は含まれない。 又、一つの部屋に2人住んでいても補助は一部屋分。 | | | |
| 川崎市の取り組み | 設置費 | (1か所あたりの年間限度額) 3,550,000円 | | | |
| | 運営費 | (1か所あたりの年間限度額) 7,396,000円 | | | |
| | 独自事業 | *精神障害者住み替え住宅家賃助成事業 家主からの立退き要求等により住宅確保に困窮する世帯に対して住み替えに必要な家賃の差額等を助成。 ・家賃助成；単身世帯～3万円まで全額、3万円超7万円まで半額；月額5万円程 複数世帯～5万円まで全額、5万円超9万円まで半額；月額7万円程 ・転居一時金；転居後家賃の5か月以内の額を助成 | | | |
| 神奈川県での取り組み | 設置費 | 利用者区分等 | 補助先 | 補助基本額 | 補助率 |
| | | 市域に設置された場合 | 市 | 設置費；単価×新設生活ホーム数 単価は180,000+80,000×入居定員数 (4人を限度とする) | 10/10 |
| | | 町村域に設置された場合 | 法人及び団体 | | |
| | *家屋賃借に関わる幹旋料、礼金、家賃改修費、電話敷設、その他入居者の生活に必要な物品購入費等 | | | | |
| | 運営費 | 利用者区分等 | 補助先 | 補助基本額 | 補助率 |
| | | 利用者の居住地が市域の者の場合 | 市 | 運営費；単価81,000円×各月初日の在籍利用者数の年間各月の合計数 | 1/2 |
| 利用者の居住地が町村域の者の場合 | | 法人及び団体 | 10/10 | | |
| *管理人雇用費、旅費、役務費、需要費、その他利用者の援助に要する経費 | | | | | |
| 滋賀県の取り組み | 整備費 | *年間2,250,000円が限度額 | | | |
| | 活動促進費 職員研修費 | *年間40,000円 (平成7年度) | | | |

事 例

(1) 家族会が運営するグループホーム

精神病院の家族会が運営するグループホーム2施設で実習した感想を述べる。なお、2施設とも地方自治体独自の補助金制度のない地域にあった。

これらのグループホームにおいては、補助金のほぼ全額が世話人の人件費に充てられてしまい、設備や日用品に充てることができない状況であった。世話人の私費から設備費や雑費が捻出されている状況であった。また、世話人の代替職員がいないため、ボランティアに頼らざるを得ない状況であった。

しかも、問題は運営費の額だけではない。世話人の役割を明確に定めることができないことや、病状の悪化した入居者への対応が迅速にとれないことなどに苦慮していた。任意団体によってグループホームが運営されることは、障害者の自立にとっては理想的な姿であるといえるが、障害者の多くは精神分裂病者であり、医学的知識が充分でない一般人にとって、世話人としての役割を遂行していくことは絶えず不安がつきまとうであろう。したがって、医療機関による強力な支援・指導体制が不可欠であると思われる。

(2) 社会福祉法人が運営するグループホーム

社会福祉法人（仮にA会と称す）が運営するグループホームで実習した感想を述べる。なお、この施設も地方自治体独自の制度のない地域にあった。

世話人と代替職員はA会の職員が兼務していた。世話人の役割は就労援助と生活援助であるが、長期的なビジョンを立てて支援していた。なお、世話人の人件費は補助金額の95%を占めており、前述の家族会による運営と同じ状況であった。

就労援助として、グループホームの入居者のうちA会の関連事業所に勤務している人の職場を毎日訪問していた。また、勤務していない人についてはA会の通所事業に参加させていた。

また、生活援助として、入居者が仕事を休んだ時、仕事から帰宅した時、仕事の休日の時などに訪問していた。そして、服薬、健康面、生活全般の諸問題などについての相談にも応じていた。また、日誌を書かせて入居者の服薬状況、生活状況、健康状態などを把握していた。また、月1回程度、買い物や食事会を企画して趣味や生活の情報を提供していた。その他、設備や器具の整備を行って生活環境の維持向上を図っていた。また、給食サービスなどの援助を状況に応じて行っていた。

入所者の精神症状が悪化するなどの緊急時には、バックアップ施設として精神病院が24時間体制で待機していた。

考 察

精神症状が軽快したにもかかわらず、いつまでも精神病院から退院できないでいる患者の多さが問題となっている。日本精神神経学会の調査¹⁾によると、彼らが退院できるための条件として最も望まれる生活の場として、グループホームや小規模施設が挙げられていた。そして、そこでのケアの内容は給食付きなど比較的濃厚なメニューが望まれていた。つまり、地域において、一定のケアを提供できるスタッフを持ち、日常生活面での給食などのサービスを提供し得る資源が必要とされている。

なお、1983年度の厚生省の調査²⁾によると、精神病院の入院患者のうち30.4%の患者は条件を整えば退院の可能性があるとされている。2年以上入院生活を続けている患者に限っても、このような基準に該当する患者数は全国で約19,000人にのぼるとされている。そのような経緯もあって、1993年度から国の事業としてグループホームが予算化されることになった。

1995年現在、全国のグループホームの総数は272施設であるが（表2）、患者19,000人をカバーするために必要なグループホーム数は、一施設5～6人と計算して最低3,000～3,800施設は必要であり、現状では1割にも満たない患者のみがその恩恵を享受しているにすぎない。したがって、今後グループホームをさらに増加させていく必要がある。そこで、グループホームを増加させるためのファクターを本研究の結果から導き出してみたい。

まず、家族会などの任意団体が運営主体であるグループホームに注目したい。著者の実習した家族会の運営するグループホームでは、運営資金が慢性的に不足していることや代替要員がいないことなどがあって、苦しい運営を強いられているようである。しかし、このような状況にあるにもかかわらず、東京都や神奈川県には任意団体が運営するグループホームが極めて多いことが注目される（表1）。東京都と神奈川県だけで任意団体（家族会を含む）で運営されているグループホームは、全国の101施設中59施設を占めている。この地域に特に多い理由として

は、国だけでなく地方自治体からの独自の補助があることであろう(表4)。したがって、地方自治体からの独自の補助が加わることが、任意団体によるグループホームが定着・増加するために重要なファクターであるといえる。今後の課題としては、他の地方自治体に対しても、グループホームへ積極的に補助を行うよう強力に働きかけていくことが急務であろう。

次に、運営主体に流目したい。医療法人によるものが93施設と最も多く、個人病院を合わせると105施設にのぼる。さらに福祉法人、社団法人、財団法人を含めると166施設になり、全体の6割に達する。そして、事例に挙げたある社会福祉法人が運営するグループホームに見られるように、このような施設では比較的充実した体制が整っているようである。したがって、このように経済的基盤が整っている医療機関がグループホームの運営に積極的にかかわっていくことが、グループホームの増加に大きく関与するファクターであるといえる。したがって、グループホームを運営していない医療機関においてはより積極的な姿勢が望まれる。

なお、バックアップ施設は病院・診療所が全

体の6割以上を占めていた(表3)。入居者が精神障害者であることから、この結果は当然のことといえる。ただし、家族会により運営されている事例に示したように、世話人は自らの役割を臨機に判断し遂行できるほど医学的知識が充分でなく、入居者の病状が悪化しても適切な対応がとれないのが現状である。したがって、バックアップ施設に求められるものは、スタッフの教育や心理的サポートを含めた積極的な支援体制であろう。

ま と め

1. 精神障害者グループホームの全国的な実態調査を1995年に行った。
2. グループホームの総数は272施設であったが、必要とされる数の1割にも満たなかった。
3. 任意団体が運営していくためには、国からだけでなく地方自治体からの独自の補助が不可欠である。
4. 医療機関は経営基盤が安定しており、また精神障害に関する専門的知識を有しているので、グループホームの運営やバックアップに積極的にかかわっていくべきである。

文 献

- 1) 大島 巖, 猪俣好正, 樋田精一, 吉住 昭, 稲地聖一, 丸山 晋(1991)長期入院精神障害者の退院可能性と退院に必要な社会資源およびその数の推計——全国の精神科医療施設4万床を対象とした調査から——, 精神神経学会誌, **93**, 582—603.
- 2) 厚生省(1985)昭和58年度精神衛生実態調査報告の概要, 厚生省.